

。夜中の次 迫る。電子音と狭間と、香る畳の上辺だけを描く記述。つが あ。ここにゐるね つまむ。意識を、電子音が、あと五分、つて、なつて。つまむ。駒を、手を、未来を。そういえばいるね、誰かと、誰か。皮が隔てて、他人だ。だね。電子音とまなざしと。あと一分、つてなつて。ここから加速。ほら、あと30秒、つてなつて。あと10秒、つて、5秒つ、1、2、3、電子音つて、切り替え。続けて、10秒を。、、、20秒。つまり、経過していく側へ。ここから、混ざり、つまり、私は0、から。対して、0、へと、電子音、あと一分つて、だつて。再び、10秒、、、20秒、2、3、4、これをつ、つて妥協。誰、あ、いたね。裏の門から、右に曲がつて、プールの前、自転車列、汚れたカーテン、空き缶のかご、左から一つ、二つ、三つ。そこ、つ、で、している、勝負、あ、電子音つて、あと一分、だ。黙り、いて。黙り、いる。時計、叩かれた。叩かれた。繰り返して追い詰めるそれ、は伽のようで、めつたに訪れない果てる時を、迎える時を、待ちそして待たない、電子音つ、つ、つ。対面も10秒、、、20秒、2、3、4、これがつ、勝負。限界が、訪れることだつてあつて、時間が、永遠を、求めたつて。時計が区切る、終わらなさと終わり。ね、また2、3、4、さらに6、7、8。時が迫る、見て、時が迫り返す。腕が裂く。空気。局面。で、起こったことに時計は、再び、始めて、迫り、迫られて。静かになった、それは、あきらめ、で。つまり、儀式に、なつて、10秒、の後に、手は伸び、左から一つ目の歌声、左から二つ目の、あ、え、い、う、え、お、あ、お、それは、届く。届けられ、届いてしまう。ね。時計、目立たない、終わりへと、その先、こだわり。畳、香り、香れ、つて。20秒、、、そして、頭がつま先へと吸い込まれ、吸い込ませ、一、二、三で戻る。戻らせる。つこれ、で、時計、電子音、終わりだ。これが儀式だつて、皮と皮が隔てていたものが、近づく、そして、交差する、ね。いるね。見て、見られるから。ここから、は、決められない、時間、の、抱擁する、艶めかしい、湿った、感想。アナログの時計が、刻む、音は、無限。鼓動に似て、血流が、痣になるように、つて。痣にされて、させて、させられてね。ねえ。